

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100364	事業の開始年月日	平成28年12月1日
		指定年月日	令和4年12月1日
法人名	株式会社 三文サービス		
事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台		
所在地	(234-0054) 横浜市中区港南台6-9-26		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和7年6月14日	評価結果 市町村受理日	令和7年8月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様がいつまでもお元気に生活できるよう、「ライフキネティック」という機能訓練の専門講師による定期的な体操と、公園の隣にある立地を活かし日々の外出支援を積極的に行っています。併設している事業所が複数あり、本来GHには配置要件のない看護師が併設施設より毎日午前と午後に来て下さり、利用者様の体調管理をサポートしてくれます。これまで20名以上のご利用者様を看取っておりますが、多くの利用者様が寝たきりになることなく最期を迎えられています。平均居住年数も4年半近くと長く穏やかに生活を営めていただける所が強みです。また当該看護師は法人の安全衛生委員として、職員の健康管理も包括的に行っており、法人として横浜市から「健康経営認証AAA」を3期連続で受賞しております。横浜市で最も事故報告の多い誤薬事故対策として、開所当時から薬局と連携し、服薬管理ロボットの導入を行っており、誤薬事故の軽減対策に努めています。また職員の配薬負担の軽減にも繋がっています。他にも睡眠状況分析と夜間の見守り支援のために眠りスキンの導入や介護負担軽減のためのリフト浴の導入など、先進機器導入による職員の負担軽減にも鋭意努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年7月15日	評価機関 評価決定日	令和7年8月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR根岸線「洋光台」駅を経由する横浜市営111系統（港南台駅⇄京急線上大岡駅）「臼杵」または「港南台第1小学校前」バス停から徒歩約2分に立地しています。木造2階建ての建物で、隣接して同法人の小規模多機能型宅介護事業所があります。近隣には、緑豊かな公園やスーパーマーケット、レストランなどの商業施設があります。

＜優れている点＞

「昨日と変わらない今日」「今日より楽しい明日」を事業所の理念としています。利用者の体調管理に注力し、睡眠状態見守り支援システムの数値から睡眠時無呼吸症候群の兆候を把握し、補助機器導入の支援をしています。看護師が毎日、午前と午後に利用者の健康観察をしており、些細なことでも助言を得られる環境があります。業務効率化の一環として服薬ロボットや睡眠時の見守り支援システムを導入し、誤薬防止や転倒防止に繋げ利用者の安全確保や職員の負担軽減に取り組んでいます。また、年間行事計画を基に地域のお祭りやペイブリッジの夜景を観に外出するなど、日々を楽しめるよう工夫しています。利用者の様子を伝えている毎月発行の「家族通信」は、家族などから「普段見られない家族の様子がわかって嬉しい」などの意見をもらっています。

＜工夫点＞

災害対策として、備蓄の食事を見直し、食形態の変化に対応できる外部の代行業者と連携し、利用者個々に合わせた食料備蓄箱を用意しています。職員の特性を活かした勤務配置の工夫をして外国籍の人や障がい者を正職員として雇用し、その就労定着に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内研修や教育の機会、定期ミーティングなどを活用し、管理者より職員に対して理念の説明や、それに基づくサービスの提供のあり方について共有しているが、職員の理解度を確認する場がまだまだ不十分に思う。	法人の経営理念や社是を基に「昨日と変わらない今日」「今日より楽しい明日」を事業所の理念としています。事務所内への掲示、および事業年度始めに再確認することで、理念を共有しています。職員は利用者の体調管理に注力し、日々の生活が楽しめるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、近隣の団地の方がボランティアとして週に2回訪れ、利用者様と交流されている。保育園の園児達とハマロードの整備を定期的に行っている。登下校の交通整理活動にも今年から参加している	自治会に加入し、オータムフェスティバルや公園清掃などの行事に参加しています。下校時の小学生の見守り活動や保育園の移動動物園の催しに参加するなど、子供たちと交流しています。週2日、近隣住民がボランティアとして来訪し、食事の準備や片付けを行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護スクール事業を法人として行っており、地域の意欲のある方への資格取得支援を行っている。民生委員の方から定例の会合への参加を求められており勉強会の企画立案と連携が進む予定になっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、面会形式もしくは資料送付にて区役所、ケアプラザ、民生委員にご参加いただき、活動報告を行いながら、意見を拝聴するように努めている。事業所見学会の開催を打診され、近日取り組む予定	民生委員2名、港南区高齢障害支援課職員、港南台地域ケアプラザ職員、法人代表取締役と併設の居宅介護事業所の管理者が出席し偶数月に開催しています。活動状況や外部評価結果などを報告しています。業務改善の取組みに参加者から労いの言葉をもらっています。	運営推進会議に利用者や家族の参加が得られるよう輪番での出席依頼を検討しています。利用者や家族が速やかに次回開催の会議への参加に繋がることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	個別支援において、施設の設備環境の問題で入浴が叶わない利用者様に対して、市と相談しながら別事業所の入浴設備を活用して入浴支援を継続的に行う事が出来るようになった	事業所見学会の開催について港南台地域ケアプラザの職員などから話題に上がることがあり、要望に応じて開催を検討・対応する意向です。市の担当職員とは、事業所の業務改善活動を基にしたPR動画作成の協力要請に応えるなどして、協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に横浜市より実態把握のためのアンケート調査依頼があり、それを通じて理解度のチェックを行い、必要な指導と助言を行うよう努めている。またeラーニングでの研修も定例で行い、指導的職員による現場での不適切事例の共有と改善も定期的に行っている。	「身体拘束廃止に関する指針」を整えています。職員は、法人が合同開催する委員会や研修に参加し、理解を深めています。「トイレ」という言葉を頻繁に使うことで不穏になるケースがあることを職員間で共有し、対応しています。管理者は、職員に対し、スピーチロックにつながりやすい「ちょっと待って」ではなく、「どうしましたか」と声をかけるよう指導しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記同様に対応を行い、定期ミーティングを通じて不適切事例があった際に直ぐに共有と改善を行うように努めている。	「虐待防止のための指針」を整え、職員は法人が合同開催する委員会や研修に参加し理解を深めています。見守りカメラや行政のアンケート調査を活用し、日頃の言葉かけが心理的な虐待に繋がっていないかなどを振り返っています。職員には、虐待の兆候を発見した際の報告義務について定期的に周知しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期研修にて学習機会を設けている他、管理者やケアマネジャーが検討の必要なケースについて、広く関係者と協議する機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に滞りなく行うように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の発案で焼き焼きパーティを催したり、1階と2階の利用者様同士で積極的に交流が図れるように共同でレクを行う場を増やしたりしている。ご家族からの要望で新型コロナの5類移行後の対応として居室内での面会を再開した。	利用者の意見は、日々のケアを通して把握しています。毎月「家族通信」を発行し、利用者の様子を家族などに伝えています。新型コロナウイルス感染症の5類移行後、初の報告会を実施しています。利用者1人ひとりの状況に応じて個別の対応を心掛けています。サプリメント服用の希望などは、専門職などと検討し判断しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各職層ごとのミーティング機会を活用し、意見や提案を集約、反映している。また適宜、管理者より職員に声掛けし、意見や提案を聞くようにしている	管理者は、「年間行事計画」の企画や予算について職員の提案も受け入れ、意見が言いやすいようにしています。また、職員が年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、自由に意見を述べられるように、ユニットごとのミーティングを毎月開催しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年度の処遇改善加算の見直しに伴い、給与水準をさらに向上できるよう規則の変更を行った。高齢従業者に対し、無理なく勤務が出来るよう時短出勤など柔軟な勤務体制を整備した	働きやすい環境の整備し、処遇や給与水準を見直し、モチベーションの向上に努めています。休憩室を整備し、昼食代の補助も支給しています。また、有給休暇が取得しやすくなるよう、高齢職員には短時間勤務を、障がいのある職員には特性に合わせた柔軟なシフトを組むなど、多様な働き方を推進することで、就業の定着につなげています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の職位、就業態度、経験年数、各種評価結果に基づき、外部研修の参加、職場内OJTなどを個々のレベルに合わせて実施している	「法定及び全体研修の実施計画書」に基づき研修を行い、参加できなかった職員は、研修資料の回覧で内容を共有しています。受講が承認された外部研修は、出勤扱いとし法人が費用を負担します。今年は、外国籍の職員を採用し文化の違いなどにも配慮しながら育成しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業他社への訪問機会を設け、自身の職場内の課題解決へのヒントを得るよう努めている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご本人との面談などを通じ、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。法人内の別サービス利用時から関わりの多い利用者も多く、割とスムーズに利用スタートできる環境にある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご家族との面談などを通じ、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。法人内の別サービス利用時から関わりの多いご家族も多く、割とスムーズに利用スタートできる環境にある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人の理念や方針にはご理解を頂きながらも、提供するサービスを強要することなく、ニーズに応じた柔軟な対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事や手伝って頂けることは、できる限り行って頂く事を基本として、職員もご利用者様も共に役割を持った関係性が維持できるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	LINEを活用し、細かい事でも報告や相談がしやすい環境になったことで、積極的にご家族と一緒に方針を考え、時には外出支援などにも協力を頂くなど良い関係性の構築に努めている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	同じ自治会に住まわれていた利用者様もおり、自治会の行事に積極的にお連れして、地域の方との交流を楽しんで貰っている。また地域の方から面会の打診も受け柔軟に対応をしている。	家族の協力を得て、好物の寿司を食べに行ったり、行き慣れた公園を散歩したりしています。家族とともに冠婚葬祭にも参加しています。また、入居前からノンアルコールビールを週に1回程度嗜むといった生活習慣を継続できるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	依存したり、排除したりすることのないよう適宜、職員が間に入りながらご利用者様同士の交流も行うよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	具体的事例は今のところないが、あれば相談支援に応じる体制はある		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月定例の職員ミーティングにて確認と共有を行うほか、半年ごとの定期でのアセスメントとモニタリングを通じ把握するように努めている。	利用者の思いや生活歴を深く理解するため、様々な工夫をしています。入居時には、家族へ聞き取りを行うほか、「〇〇様について教えてください」という書式を使い、生活歴を詳しく把握しています。また、入居後も日常の会話で聞いたエピソードを家族の面会時に確認し、利用者本人の思いや暮らし方などを尊重したケアに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時以外にも、支援方法に悩んだ時などは関係者の方からヒアリングを行い、把握するように努めている。また日々の生活の中の何気ない会話から生活歴についても把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	画一的なサービス提供にならないように個別記録などを活用しながら、ご本人の状態像に基づいたサービス提供に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	PDCAサイクルを意識し、関係する職員全員でカンファレンスを行い、定期でのモニタリング評価のほか、状態変化が見られた利用者のプラン見直しを行うようにしている。変更については事前にご家族に説明を行い、要望を聞く体制をとっている	日々の支援を個別の介護計画に沿って行っています。食事、排泄、入浴、口腔ケアなどの支援内容は、一覧表に分かりやすくまとめて掲示し、職員全員が共有できるようにしています。また、ケアプランに沿った支援については毎日記録を残し、定期的なモニタリングやミーティングでのケース検討に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録用紙にケアプランを添付しており、常にプランに沿った実践をしているかを意識し、支援した結果を記録に反映し、特変が見られる場合は申し送りノートなどで共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同一敷地内に各種介護保険サービスを併設させており、ニーズに合わせたサービスの提供に努めており、保険での対応が難しい事案についても、介護事業指導課などに相談しながら対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所にある公園への積極的な外出支援や、自治会、保育園などとの地域交流、ケアプラザからの地域の催し物の情報提供などを受けながら、様々な活動への参加を促せるよう努めている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本は提携している医療機関にかかりつけ医をお願いしているが、近隣に元々のかかりつけ医をお持ちの利用者様は継続した関係性を維持できるよう支援し、月に2回以上の定期往診の他にも、随時連絡体制をとっている	協力医療機関があり入居前のかかりつけ医を希望した場合は、協力医療機関に情報提供をして連携が図れるようにしています。歯科医と歯科衛生士の訪問もあり、必要な場合は皮膚科や眼科などの受診にも家族の協力を得ながら対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日看護師に訪問してもらい、日々の健康状態の共有と、些細な事でも相談助言を受けられる関係性を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急性期を中心とした関係医療機関との連携に努め、必要に応じて、入院時の情報提供や退院に向けたカンファレンスを実施している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に家族・本人の意向を聞き取り説明と同意を得ているほか、実際に余命宣告を受けた後も意向の確認を取りながら家族・医師・看護師と連携して支援に努めている。職員に対しては適宜、研修を実施している他、看取った後の心理的フォローも行っている	「重度化・看取りケアに関する指針」を整備し、契約時に内容を説明し、同意を得ています。看取り期に移行した際は、家族、医師、管理者、看護師と連携してカンファレンスを行い、方針を共有しています。ホームには看取りケアの経験を積んだ職員が多く在籍し、質の高いケアを提供できるよう、看取りに関する動画研修も実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的研修に限らず、実践場面でのOJTを行いながら経験を積めるよう努めている。職員の不安軽減の為に管理者が常にフォローアップできる連絡体制をとっている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的【年2回以上】に避難訓練を実施し、当日出勤者と利用者様に参加いただき避難方法や課題の共有を行っている。非常用発電機を導入し、災害時でも生活の継続が出来るよう環境整備を行った。	避難訓練に加え、非常災害時の対応（BCP）をテーマにした内部研修を実施しています。また、非常用発電機を整備し、外部の代行業者と契約し、利用者1人につき1週間分の非常用備蓄を確保しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日頃、〇〇さんと敬意を持った呼び方をするとところから徹底し、人生の先輩に対する敬意を忘れないよう周知している。研修は定期的行っているほか、ミーティングなどでも折を見て注意喚起を行っている。個人情報の取り扱いについても漏洩リスクを自覚させるよう努めている	居室への出入りの際は、必ずノックや声かけを行い、配慮ある対応を心がけています。また、事務室のドアに接遇に関する掲示をし、利用者が不快に感じないよう声かけの方法を工夫するなど、「おもてなしの心」をもって接しています。さらに、個人情報保護およびプライバシー保護に関する内部研修も定期的に実施し、職員の意識向上に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全ての支援に入る際に必ず事前の説明と同意を得るようにし、本人から希望や意思表出があった際は尊重するように心がけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	支援内容やプログラムは目安とし、体調や本人の気分などを伺いながらそれを優先できるよう配慮している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族とも協力し、季節感のある洋服やご本人が好きな洋服を着られるよう環境整備に努めているほか、できる限り、一緒に着替えを選ぶようにしている			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や配膳、下膳、片付けなど食事に関する一連の流れから、出来る限り一緒に行うよう努めている。またお菓子作りやお鍋など皆で楽しめるメニューも定期的に提供して楽しめるよう配慮している	朝食と昼・夕食の主食・汁物はユニットで準備していますが、主菜、副菜は隣接する施設で専属の調理スタッフが調理しています。花見の季節にはお花見弁当、冬には鍋など季節を感じられる食事を提供しています。食事形態は常食、きざみ食、ミキサー食があり、きめ細かく個別対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	往診医、看護師、歯科医師、管理栄養士と連携をとりながら、それぞれの健康状態、口腔嚥下機能も考慮した支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、各自の能力に応じた口腔ケアを行うとともに、歯科医師、歯科衛生士から助言を受けながら支援している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用いながら、状況の確認、個別の能力の把握を行い、必要な方のみ声かけを行いながら失敗しないよう支援している。またトイレ内でうまく排泄できるよう座る時間に余裕を持たせる等工夫している	個別の状況に応じた定時誘導や、訴えがあった際の誘導はもちろん、排泄が自立している人についても安全に配慮し、見守りを行っています。また、入居時に介助が必要だった利用者が、入居後に一人で排泄できるようになった事例もあり、自立に向けた支援にも力を入れています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	季節に応じた水分摂取のあり方や、排泄に繋がる下腹部を意識した体操、適切な薬などでのコントロールなどをおこなって支援している		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回、順番は決めているものの、当日の体調や気分に応じて順番を入れ替える等柔軟に対応している。拒否がある際はその理由を探りながら、気持ちよく入浴できるよう配慮している。柚子湯や菖蒲湯などの季節感も大切にしている	入浴は基本週2回としていますが、利用者の状態や希望により柔軟に対応を心掛けています。可動式のシャワーチェアーを使用し、身体状況に応じて安全に入浴できる環境を整備しています。座位が困難な場合は、隣接する施設の機械浴で対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠りスキャンを活用し、睡眠分析を行いながら適切に睡眠支援を行うとともに、施設のプログラムを優先することなく体調に応じた支援を心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し、服薬管理ロボットを使用して、誤薬を防ぐ取組みを実施している。また新しい服薬が始まる際は、内容について周知して目的や期間なども共有するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の家事の手伝いや、元々持っていた趣味などを途切れることなく継続してもらえるように支援している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	安眠につながる日光浴を意識し、晴れの日には積極的に散歩支援をしているほか、公園清掃など地域行事にも積極的に参加して交流が保てるよう努めている	朝食の食材を一緒に買いに行ったり、玄関先で外気浴を楽しんだりするなど、日々の暮らしに外出の機会を取り入れています。また、地域の祭りに出かけたり、公園の清掃で花壇の植え替えに参加するなど、地域社会との交流も大切にしています。非日常の体験として、夜景を観る行事を企画し、ベイブリッジまで足を運んだこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理上の課題もあることから金銭管理支援は行っていない。但し、買い物などは一緒に行って本人が買いたいものを選んでもらい、立替で対応しているケースもある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	テレビ電話での面会支援や、年賀状など手紙での交流を支援している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けを一緒に作り楽しんだり、寒がりな人や歩行力に応じて席配置などにも配慮している。また利用者同士の相性も見極めながら互いに交流が促進されるように配慮している	居心地のよい空間を保つため、空気清浄機や加湿器を完備しているほか、気温が低い日には暖房と合わせて床暖房も使っています。窓からは木々の緑を眺めることができ、日差しが強いときはサンシェードで光を調整します。また、車いすがスムーズにすれ違える十分な広さを確保しています。日中は利用者の好きな音楽を流すことで、リラックスした時間を提供しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にいてもTVを見たりソファでくつろいだり、窓辺で日光浴ができたりと好きなように過ごしていただけるよう配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明、ベッド、エアコン、カーテン、収納スペースは予め設置しているが、基本的にはそれぞれの思い思いに家具などを持ち込んで頂けるよう持ち込み制限のルールは少なくしている	自宅にいた時と同じように過ごせるよう、使い慣れた家具や愛用品の持ち込みをお願いしています。家族の協力のもと、使い慣れたイスや家族の写真、冷蔵庫、携帯電話などを持ち込んでいる人もいます。持ち込み品の制限を最小限にすることで、居室が落ち着ける自分だけの空間になるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	わかりやすい表示の掲示や、転倒しないように段差を排除するなどし、自由に活動できるような環境整備に努めている		

事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内研修や教育の機会、定期ミーティングなどを活用し、管理者より職員に対して理念の説明や、それに基づくサービスの提供のあり方について共有しているが、職員の理解度を確認する場がまだまだ不十分に思う。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、近隣の団地の方がボランティアとして週に2回訪れ、利用者様と交流されている。保育園の園児達とハマロードの整備を定期的に行っている。登下校の交通整理活動にも今年から参加している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護スクール事業を法人として行っており、地域の意欲のある方への資格取得支援を行っている。民生委員の方から定例の会合への参加を求められており勉強会の企画立案と連携が進む予定になっている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、面会形式もしくは資料送付にて区役所、ケアプラザ、民生委員にご参加いただき、活動報告を行いながら、意見を拝聴するように努めている。事業所見学会の開催を打診され、近日取り組む予定			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	個別支援において、施設の設備環境の問題で入浴が叶わない利用者様に対して、市と相談しながら別事業所の入浴設備を活用して入浴支援を継続的に行う事が出来るようになった			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に横浜市より実態把握のためのアンケート調査依頼があり、それを通じて理解度のチェックを行い、必要な指導と助言を行うよう努めている。またeラーニングでの研修も定例で行い、指導的職員による現場での不適切事例の共有と改善も定期的に行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記同様に対応を行い、定期ミーティングを通じて不適切事例があった際に直ぐに共有と改善を行うように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期研修にて学習機会を設けている他、管理者やケアマネジャーが検討の必要なケースについて、広く関係者と協議する機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に滞りなく行うように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の発案ですき焼きパーティを催したり、1階と2階の利用者様同士で積極的に交流が図れるように共同でレクを行う場面を増やしたりしている。ご家族からの要望で新型コロナの5類移行後の対応として居室内での面会を再開した。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各職層ごとのミーティング機会を活用し、意見や提案を集約、反映している。また適宜、管理者より職員に声掛けし、意見や提案を聞くようにしている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年度の処遇改善加算の見直しに伴い、給与水準をさらに向上できるよう規則の変更を行った。高齢従業者に対し、無理なく勤務が出来るよう時短出勤など柔軟な勤務体制を整備した		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の職位、就業態度、経験年数、各種評価結果に基づき、外部研修の参加、職場内OJTなどを個々のレベルに合わせて実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業他社への訪問機会を設け、自身の職場内の課題解決へのヒントを得るよう努めている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご本人との面談などを通じ、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。法人内の別サービス利用時から関わりの多い利用者も多く、割とスムーズに利用スタートできる環境にある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご家族との面談などを通じ、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。法人内の別サービス利用時から関わりの多いご家族も多く、割とスムーズに利用スタートできる環境にある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人の理念や方針にはご理解を頂きながらも、提供するサービスを強要することなく、ニーズに応じた柔軟な対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事や手伝って頂けることは、できる限り行って頂く事を基本として、職員もご利用者様も共に役割を持った関係性が維持できるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	LINEを活用し、細かい事でも報告や相談がしやすい環境になったことで、積極的にご家族と一緒に方針を考え、時には外出支援などにも協力を頂くなど良い関係性の構築に努めている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	同じ自治会に住まわれていた利用者様もおり、自治会の行事に積極的にお連れして、地域の方との交流を楽しんで貰っている。また地域の方から面会の打診も受け柔軟に対応をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	依存したり、排除したりすることのないよう適宜、職員が間に入りながらご利用者様同士の交流も行うよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	具体的事例は今のところないが、あれば相談支援に応じる体制はある		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月定例の職員ミーティングにて確認と共有を行うほか、半年ごとの定期的のアセスメントとモニタリングを通じ把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時以外にも、支援方法に悩んだ時などは関係者の方からヒアリングを行い、把握するように努めている。また日々の生活の中の何気ない会話から生活歴についても把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	画一的なサービス提供にならないように個別記録などを活用しながら、ご本人の状態像に基づいたサービス提供に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	PDCAサイクルを意識し、関係する職員全員でカンファレンスを行い、定期でのモニタリング評価のほか、状態変化が見られた利用者のプラン見直しを行うようにしている。変更については事前にご家族に説明を行い、要望を聞く体制をとっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録用紙にケアプランを添付しており、常にプランに沿った実践をしているかを意識し、支援した結果を記録に反映し、特変が見られる場合は申し送りノートなどで共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同一敷地内に各種介護保険サービスを併設させており、ニーズに合わせたサービスの提供に努めており、保険での対応が難しい事案についても、介護事業指導課などに相談しながら対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所にある公園への積極的な外出支援や、自治会、保育園などとの地域交流、ケアプラザからの地域の催し物の情報提供などを受けながら、様々な活動への参加を促せるよう努めている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本は提携している医療機関にかかりつけ医をお願いしているが、近隣に元々のかかりつけ医をお持ちの利用者様は継続した関係性を維持できるよう支援し、月に2回以上の定期往診の他にも、随時連絡体制をとっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日看護師に訪問してもらい、日々の健康状態の共有と、些細な事でも相談助言を受けられる関係性を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急性期を中心とした関係医療機関との連携に努め、必要に応じて、入院時の情報提供や退院に向けたカンファレンスを実施している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に家族・本人の意向を聞き取り説明と同意を得ているほか、実際に余命宣告を受けた後も意向の確認を取りながら家族・医師・看護師と連携して支援に努めている。職員に対しては適宜、研修を実施している他、看取った後の心理的フォローも行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的研修に限らず、実践場面でのOJTを行いながら経験を積めるよう努めている。職員の不安軽減の為にも管理者が常にフォローアップできる連絡体制をとっている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的【年2回以上】に避難訓練を実施し、当日出勤者と利用者様に参加いただき避難方法や課題の共有を行っている。非常用発電機を導入し、災害時でも生活の継続が出来るよう環境整備を行った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日頃、〇〇さんと敬意を持った呼び方をするところから徹底し、人生の先輩に対する敬意を忘れないよう周知している。研修は定期的に行っているほか、ミーティングなどでも折を見て注意喚起を行っている。個人情報の取り扱いについても漏洩リスクを自覚させるよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全ての支援に入る際に必ず事前の説明と同意を得るようにし、本人から希望や意思表出があった際は尊重するように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	支援内容やプログラムは目安とし、体調や本人の気分などを伺いながらそれを優先できるよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族とも協力し、季節感のある洋服やご本人が好きな洋服を着られるよう環境整備に努めているほか、できる限り、一緒に着替えを選ぶようにしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や配膳、下膳、片付けなど食事に関する一連の流れから、出来る限り一緒に行うよう努めている。またお菓子作りやお鍋など皆で楽しめるメニューも定期的に提供して楽しめるよう配慮している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	往診医、看護師、歯科医師、管理栄養士と連携をとりながら、それぞれの健康状態、口腔嚥下機能も考慮した支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、各自の能力に応じた口腔ケアを行うとともに、歯科医師、歯科衛生士から助言を受けながら支援している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用いながら、状況の確認、個別の能力の把握を行い、必要な方のみ声かけを行いながら失敗しないよう支援している。またトイレ内でうまく排泄できるよう座る時間に余裕を持たせる等工夫している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	季節に応じた水分摂取のあり方や、排泄に繋がる下腹部を意識した体操、適切な薬などでのコントロールなどをおこなって支援している		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回、順番は決めているものの、当日の体調や気分に応じて順番を入れ替える等柔軟に対応している。拒否がある際はその理由を探りながら、気持ちよく入浴できるよう配慮している。柚子湯や菖蒲湯などの季節感も大切にしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠りスキャンを活用し、睡眠分析を行いながら適切に睡眠支援を行うとともに、施設のプログラムを優先することなく体調に応じた支援を心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し、服薬管理ロボットを使用して、誤薬を防ぐ取り組みを実施している。また新しい服薬が始まる際は、内容について周知して目的や期間なども共有するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の家事の手伝いや、元々持っていた趣味などを途切れることなく継続してもらえるように支援している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	安眠につながる日光浴を意識し、晴れの日には積極的に散歩支援をしているほか、公園清掃など地域行事にも積極的に参加して交流が保てるよう努めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理上の課題もあることから金銭管理支援は行っていない。但し、買い物などは一緒に行って本人が買いたいものを選んでもらい、立替で対応しているケースもある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	テレビ電話での面会支援や、年賀状など手紙での交流を支援している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けを一緒に作り楽しんだり、寒がりな人や歩行力に依じて席配置などにも配慮している。また利用者同士の相性も見極めながら互いに交流が促進されるように配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にいてもTVを見たりソファでくつろいだり、窓辺で日光浴ができたりと好きなように過ごしていただけるよう配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明、ベッド、エアコン、カーテン、収納スペースは予め設置しているが、基本的にはそれぞれの思い思いに家具などを持ち込んで頂けるよう持ち込み制限のルールは少なくしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	わかりやすい表示の掲示や、転倒しないように段差を排除するなどし、自由に活動できるような環境整備に努めている		

2025年度

事業所名 プラチナ倶楽部グループホーム港南台
作成日： 2025年 8月 26日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議へ出席依頼している区や地域ケアプラザの参加率が低い、またご家族への参加もお願いしているが、こちらも参加率が低い。	定期的に開催されるものなので、早め早めに参加依頼をして参加率の向上を図りたい。	利用者ご本人も順番に参加してもらうよう計画を立て、参加率の低い区役所へは開催案内だけではなく、直接電話などでも依頼をしていく。	2ヶ月
2	14	同地域内での連携や情報共有がケアプラザとしかできていない。	同一圏域内にあるグループホーム同士での交流ができるようにまずはお互いの運営推進会議への出席をしていけるようにしたい。	ケアプラザに間に入ってもらいながら、交流の機会を提供してもらえよう働きかけていく。	1 2ヶ月
3	10	生産性向上の取り組みを行っているが、リーダー層の教育が、まだまだ課題感がある。	実践現場における日々の課題に対して自主的に改善していけるリーダーのマネジメント力向上ができる。	昨年度行った生産性向上の取り組みを今年度も行い、取り組み自体を定着していく。	6ヶ月
4					
5					